

# 関電の原発敷地内の乾式貯蔵施設

- 原発の運転継続のためのものです
- 老朽原発の運転継続で事故が起これば、  
福井と関西は甚大な被害を受けます
- 原発の立地地元は核のゴミ捨て場となります

## 使用済燃料の乾式貯蔵施設に反対しよう

### 六ヶ所再処理工場は27回目の延期。関電の使用済燃料対策の計画も破綻

①青森県の六ヶ所再処理工場は、27回目の延期。建設開始から31年経っても完成しない

六ヶ所再処理工場の完成目標は、2024年度上期から2026年度中(2027年3月まで)に延期となりました。建設から既に31年も経過し、約15兆円の費用をつぎ込んでも完成しません。新たな完成目標も実現できるか分かりません。使用済燃料の搬出先はなく、「核燃料サイクル」は事実上破綻しています。

②六ヶ所再処理工場の2024年度上期完成を前提にした、関電の使用済燃料対策も破綻

関電が福井県に提出した「県外搬出のロードマップ(工程表)」では、2026年度から使用済燃料を六ヶ所に搬出することになっていますが、これも破綻し、見直しとなりました。(右図 2023.10.10 毎日新聞より)

関西電力が示した福井県外への使用済み核燃料搬出に向けたロードマップ

年度	2023	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
六ヶ所村の再処理工場	完工	各電力会社からの受け入れ量(徐々に800 <sup>千</sup> に増加)											
		70	170	70	...	800	.....						
再処理実証研究	フランスへ搬出	70	70	60	※矢印内の数字の単位は <sup>千</sup>								
中間貯蔵施設	操業												

③2030年頃に「県外中間貯蔵に搬出」も実現性はない。上関中間貯蔵の完成には10年以上かかる

関電の乾式貯蔵計画は、「ロードマップ」を前提にしています。使用済燃料対策は、破綻しているにも関わらず、原発の運転を続けるために、新たな核のゴミ捨て場＝乾式貯蔵を計画しているのです。

### \* 原発敷地内での乾式貯蔵施設の計画：来年(2025年)から工事開始、2027年には運用

関西電力は、福井県の3つの原発敷地内に使用済燃料の乾式貯蔵施設の設置を計画しています。

今年(2024年)3月15日に福井県知事と立地の3首長は、規制委員会に申請を出すことを了承しました。2月福井県議会では懸念する多くの意見がだされ、県民や関西の市民等は説明会を求めました。しかし福井県は、市民の声を聴こうともしませんでした。そして同日に関電は、高浜原発の設置変更許可を規制委員会に申請し、審査が続いています。また関電は、7月12日に大飯原発と美浜原発の敷地内での乾式貯蔵も申請しました。

最も早い高浜原発の第一期分は来年2025年から工事に着手し、2027年に運用開始予定です。高浜1~4号の使用済燃料を貯蔵する計画です(4頁資料参照)。

### \* なぜ突然に乾式貯蔵？

関電の全ての原発は、あと3~5年で使用済燃料プールが満杯となり、燃料交換ができず、運転ができなくなります。それを何とか避けようと、乾式貯蔵を計画しているのです(4頁資料参照)。

### \* 若狭の原発で事故が起これば、福井、関西、中部地方まで甚大な被害が及ぶ

能登半島のような地震と老朽化した原発事故が重なれば、住民は避難も屋内退避もできず被ばくを強いられ、被害は深刻になります。新たな核のゴミ捨て場をつくって原発の運転を続けるのではなく、運転を止めるよう、自治体や議員に声を届けましょう。これ以上、核のゴミを生み出してはなりません。



各原発から30km圏内の福井・関西のおおよその人口 内閣府「緊急時対応」より

原発名	福井県	京都府	滋賀県	計
高浜原発	52,000	116,000	—	168,000
大飯原発	72,000	83,000	500	155,500
美浜原発	228,000	—	51,000	279,000